

学生の書く力と読む力を高めるために

上月 翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授）

講師略歴

専門は高等教育論、西洋古典文学、未来思考。大阪大学文学研究科助教等を経て、2026 年より現職。FD、SD、IR、共通教育運営など教育企画に携わる。学士課程教育では初年次教育授業、大学院課程でもライティング支援のセミナー等を担当している。著書に『大学 IR 入門』（編者）、『カリキュラムの編成』（分担執筆）などがある。

プログラム概要

どれだけ時代が変わっても書くことと読むことは学習において中核的な位置を占めています。そのうえで生成 AI の普及をはじめとした状況の変化に応じて、書くことと読むことの指導や支援を見直すべき局面にあるといえます。本プログラムは授業や学習支援の場においていかに学生の書く力と読む力を高められるかを参加者のみなさんと考えていきます。

前半は書くことに焦点を当てます。高等教育におけるライティング指導の幅の広さをふまえ、自身の授業や専門分野において求められる書く力とは何かを明確化することからはじめます。その後、授業やカリキュラムを通じた指導の工夫や留意点を具体的に挙げることを目指します。後半は読むことに着目し、読書量の増加と学習としての質の高い読書指導の方法を検討します。最後にこのテーマでは避けては通れない生成 AI について考える時間を設けます。「いかに使わせるか／使わせないか」といった方針を定め、後学期以降の実践につなげられればと考えます。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. 学生のライティング指導に携わっている教員（分野は問いません）
 2. サポートデスク、図書館などでライティング、リーディングの学習支援にあたる教職員
 3. その他本テーマに関心のある教職員
- （なお本プログラムは日本語のライティング、リーディングを主として扱います）

到達目標

1. 自身のライティング指導（ライティング支援）における目標を具体的に定めることができる。
2. ライティング指導の留意点や工夫の方法を 1 つ以上挙げるができる。
3. 学生の読書の量と質を高める方策を挙げるができる。
4. 書くことと読むことの指導における生成 AI 利用の方針を挙げるができる。